ふじえだまちなか居住機能向上共創プロジェクト 実証報告

ふじえだまちなか居住機能向上共創プロジェクト推進分科会

▶目次

- 1. 事業実施の背景
 - (1)藤枝市の概要
 - (2)背景·課題
- 2. 事業の経過・実施内容
 - (1)事業計画
 - (2)協議会の開催
 - (3)周知活動
 - (4)運行体制の整備
 - (5)構築システム概要
 - (6)設置停留所・ステーション
- 3. 事業の効果
 - (1)利用実績(新規増設箇所)
 - (2)利用実績(全体)
 - (3)利用者アンケート調査
 - (4)効果測定
- 4. 事業の今後の方向性

1. 事業実施の背景

1. 事業実施の背景

(1)藤枝市の概要

- ●人 □ 139,975人(R6.11末)
- ●特 徴 市域の約7割を中山間地域が占める 昭和の合併で9町村、平成の合併で1町が合併 政令市静岡市のベッドタウン
- 公共交通 民間路線バス 8路線 自主運行バス 5路線 乗合タクシー 4区域・路線 タクシー事業者 4 社 鉄道駅 1 駅

地域公共交通計画•基本方針

~誰もが快適に 移動できるまち ふじえだ~ 地区拠点から都市拠点・文化交流拠点へアクセスできるネットワークの形成

(2)背景·課題

- ①市内各拠点を結ぶ交通ネットワーク、各拠点内の回遊性に課題
- ②乗合タクシーの運行を担うタクシー事業者の効率化による持続性の確保

文化交流拠点 居住誘導区域 交通ネットワ に課題 居住誘導区域 都市拠点(中心市街地) 都市拠点 文化交流拠点 (旧市街地) 街道文化拠点

地区交流拠点

居住誘導区域

地域間幹線

フィーダー系統

(民間・自主) その他の広域路線

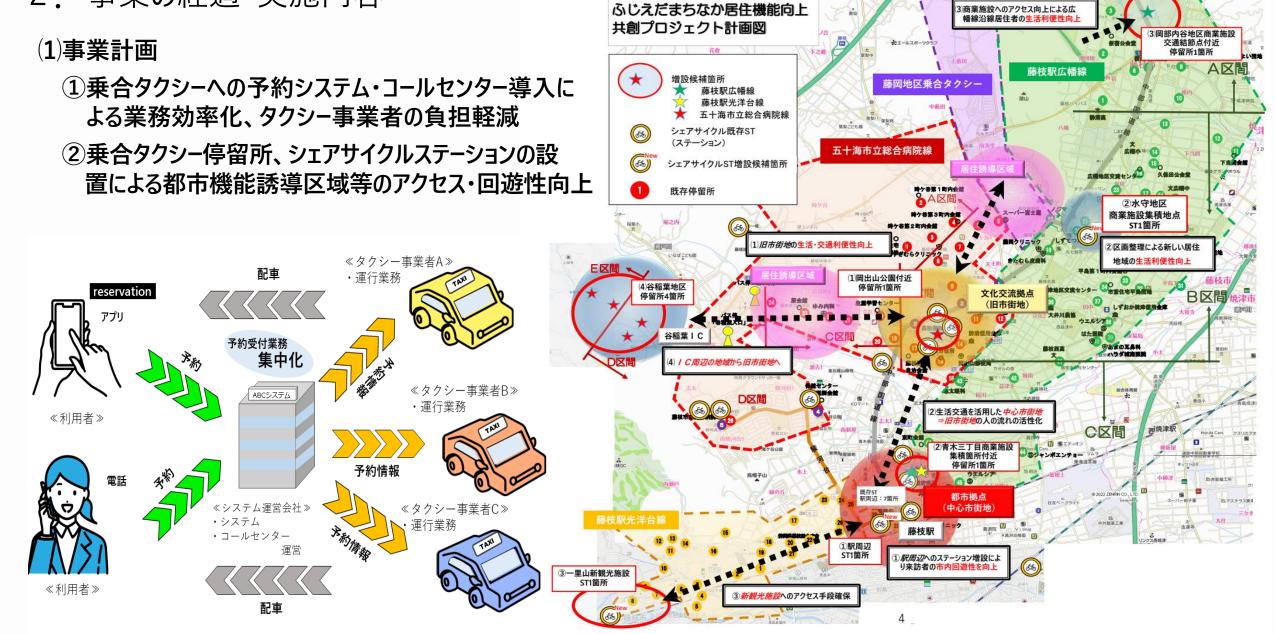
(自主)

鉄道

(乗合タクシー)

フィーダー系統(バス)

その他の地域内バス路線



令和6年度

既存ST 岡部地区:2箇所

(**2**)協議会の開催 (5/24·交付申請前)

令和6年度 第1回地域公共交通会議 ふじえだまちなか居住機能向上共創プロジェクト推進分科会(共創PF)を開催

【共創PFの構成】

下図のとおり

【協議次第】

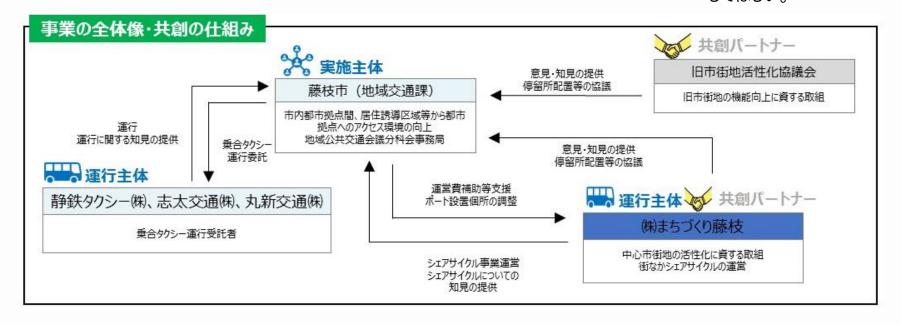
- ・乗合タクシー停留所、シェアサイクルステーションの設置個所について
- ・予約システムの構築の方向性について

【協議内容】

- ・乗合タクシーの停留所やシェアサイクルステーションについて、まちづくりの方向 性や交通ネットワークの形成の方策を鑑み議論
- ・予約システムについての配慮すべき点等について多様な視点から議論

【委員意見等】

- ・現在の乗合タクシー、シェアサイクルの利用状況を踏まえ、利用しやすい新 設箇所を検討してほしい。
- ・既存バス停付近へ乗合タクシ−停留所を設置する場合は、バス運行の妨げ にならないよう設置箇所、時刻の検討を行ってほしい。
- ・運行事業者や現在の利用者の意見を聴取し、利用しやすいシステムを構築してほしい。





(3)周知活動

印刷媒体による周知(R6.9上旬)

- ・乗合タクシー予約方法変更についてガイドブックを作成(60,000部)し、市内全世帯へ配布
- ・藤岡地区乗合タクシー(会員制)の予約方法変更について利用ガイドを作成し全会員(約750名)に送付

高齢者サロンや自治会町内会への周知(R6.9.2)

- ・サロン当高齢者への通いの場への周知 3箇所 55人
- ·自治会町内会 3 地区 86人

体験会の開催による周知 (R6.10.2)

区域の延伸を行い新たに運行区域となった谷稲葉地区の住民に向け利用体験会を開催







表」について、乗合タクシーの予約方法変更に伴いその周知の

令和6年10月から、「藤枝市乗合タクシー予約アプリ」を導入 、さらに便利に乗合タクシーをご利用いただけるようになりま

プアプリケーションによるインターネット予約が可能となります

※ご予約のお電話番号が変わります。

バス停型乗合タクシーの予約方法が変わります。 ・パス停型乗合タクシー3路線の停留所を増設します。





藤枝市乗合タクシー予約システム **国**(スマートフォン等ウェブアプリによる予約)



藤枝市バス停型乗合タクシー予約電話番号(3路線共通)

(4)運行体制の整備

各タクシー事業者のドライバー、配車業務担当者を対象にシステム利用方法の研修を実施

R6.9.20 丸新交通㈱ 1回目

R6.9.26 静鉄タクシー(株)、志太交通(株) 1回目

R6.9.20 丸新交通㈱ 2回目

R6.9.27 静鉄タクシー(株)、志太交通(株) 2回目

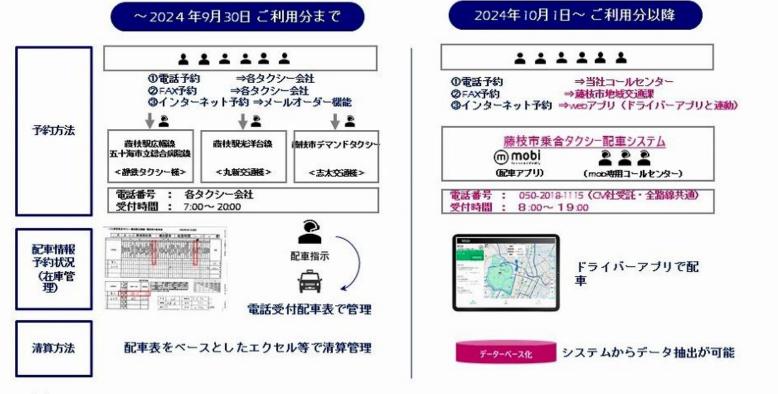




(5)構築システム概要

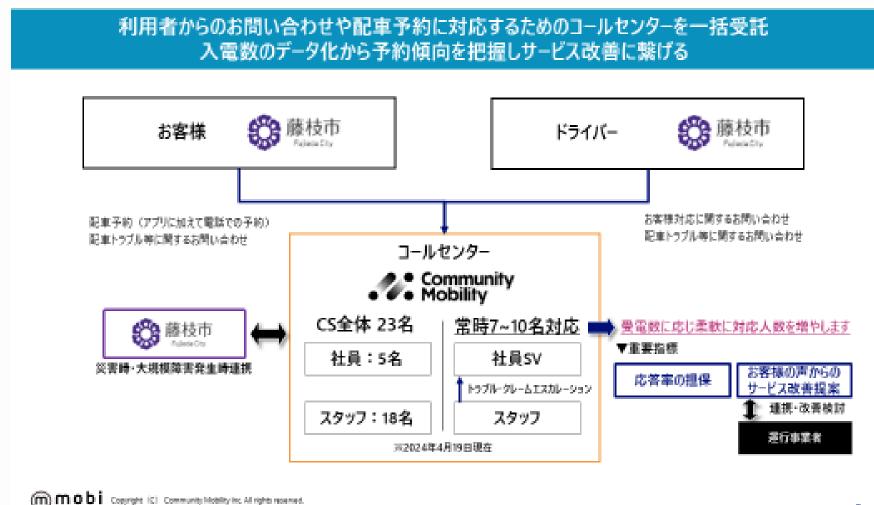
①ウェブアプリを活用し予約受付業務を集中化

デジタルを活用した効率化(運行受託タクシー事業者の人手不足解消・効率化)



(5)構築システム概要

②コールセンターを設置しアプリを利用できない利用者にも対応

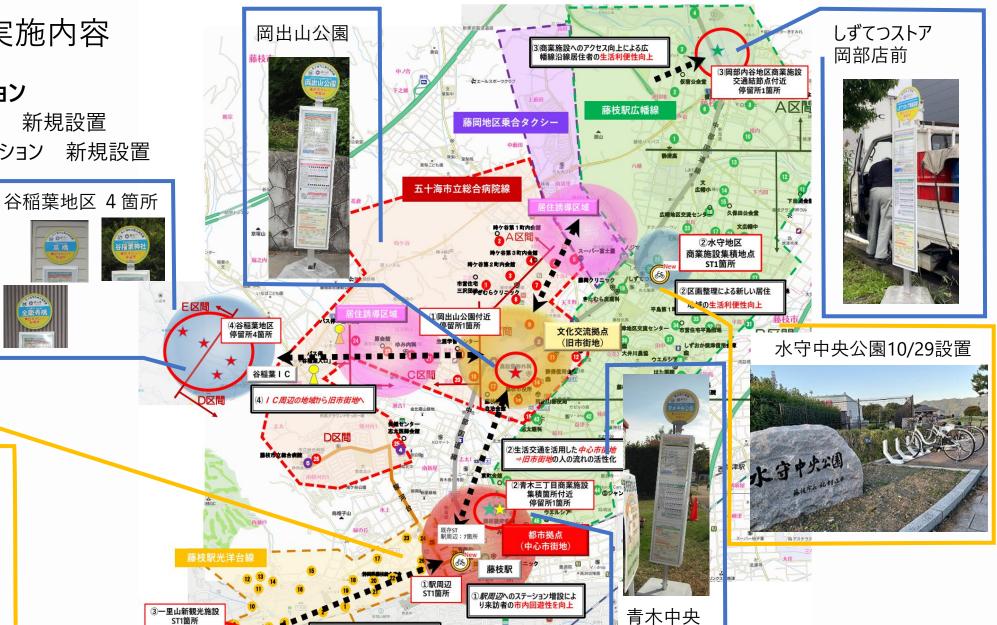


(6)設置停留所・ステーション

10/1乗合タクシー停留所 新規設置 7月~シェアサイクルステーション 新規設置

藤枝駅北地下道入口7/12設置





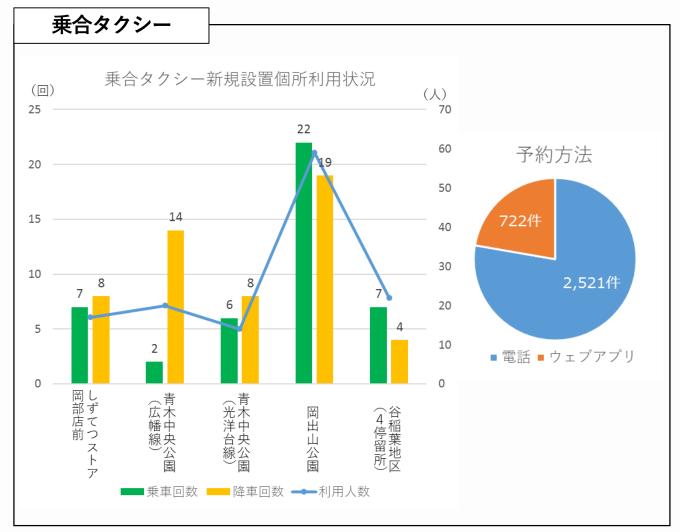
公園

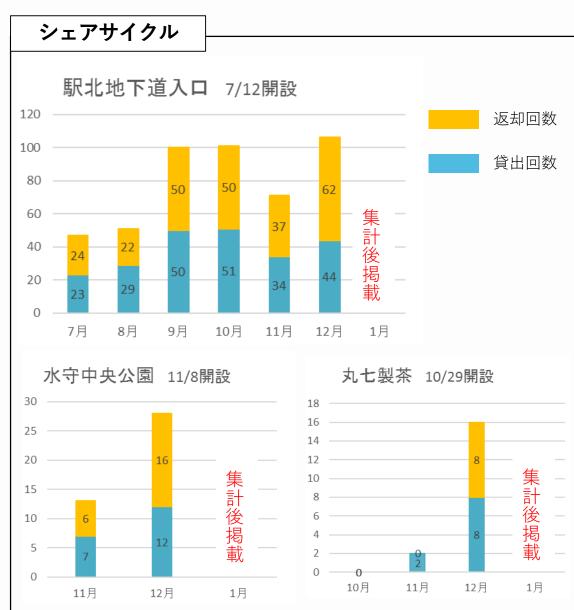
丸七製茶11/8設置



(1)利用実績(新規増設箇所)

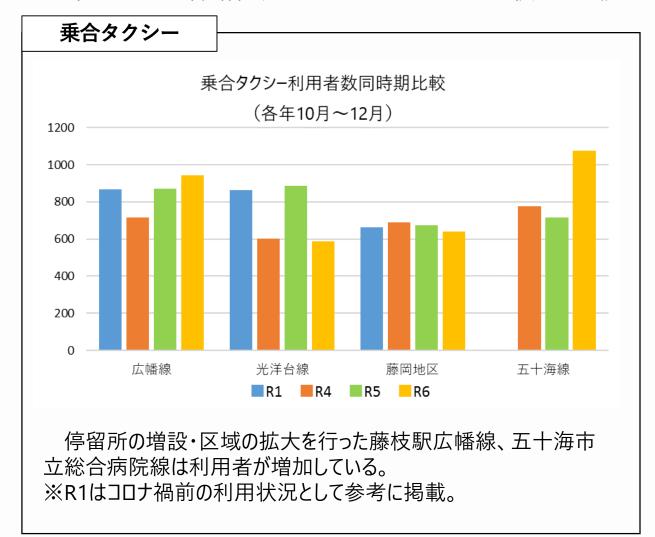
新規設置停留所・ステーションの利用実績





(2)利用実績(全体)

乗合タクシー各路線、シェアサイクルの過去の実績との比較



シェアサイクル シェアサイクル利用者数3箇年比較 3000 2500 1500 1000 500 7月 8月 9月 10月 11月 12月

天候によって利用回数が上下しやすいため、一概に月別の比較をすることができないが、年単位で見ると利用回数は増加傾向にある。

■R4 ■R5 = R6

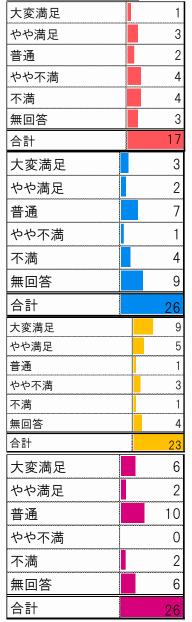
(3)利用者アンケート調査

乗合タクシー4路線の利用者にアンケート調査を行った。

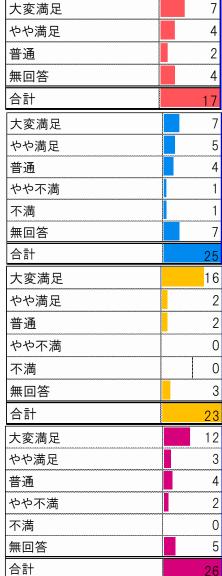
外出頻度 増加した 藤岡地区 変化なし 無回答 合計 増加した 藤枝駅広幡線 変化なし 無回答 合計 増加した 変化なし 無回答 合計 15 増加した 変化なし 無回答 合計

外出意欲 増加した 変化なし 無回答 合計 増加した 変化なし 合計 増加した 13 変化なし 10 合計 増加した 13 変化なし 合計

予約方法満足度



乗合タクシー 利用満足度



予約方法に関する意見

- ・電話応対をもっとス ムーズにしてほしい
- ・ウェブアプリがエラーで ログインできない時がある
- ・慣れればスム-ズに予約で きそう

考察・分析

- ・乗合タクシーの利用により 外出頻度・意欲ともに増加 したとする回答が3路線で 過半数となり、公共交通と しての効果を確認できた。
- ・予約方法の満足度について は電話予約の方は低調な傾 向にある。対応を重ね、 コールセンターの熟練度が 上がれば改善に向かうと思 われる。
- ・一方、ウェブアプリ利用の 方の満足度は高い傾向にあ るため、電話予約からウェ ブアプリ予約への移行を促 す方策を検討していきたい。

(4)効果測定

乗合タクシーのアンケート調査結果から効果測定を行う。

No.	効果測定項目	数値	単位	※数値入力方法に関する説明
1	外出回数の増加数 (週当たり)	0.75	回/週	回答者のうち高齢者(60歳以上)の数 70人 うち外出回数が「〇回増加した」と回答した方の合計増加回数 52.25回/週 1人当たりの増加回数 52.25回/70人≒0.75回
2	サービスを利用して、 外出意欲が増加した と認められる人の比率	52.86	%	回答者のうち高齢者(60歳以上)の数 70人 うち外出意欲が「増加した」と回答した方の数 37人 外出意欲が増加したと認められる人の比率 37人/70人*100≒52.86%
3	高齢者・障がい者に 対するご家族の送迎 回数の減少数(週当 たり)	0.80	回/週	回答者のうち高齢者(60歳以上)で乗合タクシー利用前の移動手段に「家族の送迎」を含む方の数 5人 うち家族の送迎回数が「〇回減少した」と回答し方の合計回数 4回 1人あたりの送迎減少回数 4回/5人=0.80回
4	公共交通機関を利用 した主要商業施設等 への移動回数の増加 数(週当たり)	0.82	回/週	回答者のうち利用目的を「買い物」または「食事」と回答した方の数 17人 うち外出回数が「〇回増加した」と回答した方の合計増加回数 14回/週 1人当たりの増加回数 14回/17人≒0.82回
5	サービスを利用して、 乗継時の負担が減少 したと認められる人の 比率	6.52	%	令和5年調査時に「他の公共交通への乗り継ぎを行う」と回答した方の数 25人 令和6年調査時に「他の公共交通への乗り継ぎを行う」と回答した方の数 31人 31-25=6人 総回答者数 92人 乗継時の負担が減少したと認められる人の比率 6/92*100=6.52%

測定結果について

乗合タクシーを利用することにより外出回数、外出意欲が増加したという回答が一定数あり、延伸等を行うことによる外出への効果を確認することができた。

また、藤枝駅広幡線ではバスへの乗り継ぎ(またはバスから乗り継ぎ)を行うと回答した方が、前年1人であったが5人まで増加した。

停留所を増設し、他路線への乗り継ぎ可能なポイントを 増やすことにより、効果的に 交通ネットワークを拡大でき ていると考えられる。 4. 事業の今後の方向性

4. 事業の今後の方向性

事業の今後の方向性

- ・乗合タクシーの継続運行
- 市一般財源のほか、フィーダー補助を活用し乗合タクシー路線、を確保維持していく。

また、フィーダー路線として地域間幹線との接続を踏まえた停留所増設、延伸を行い公共交通ネットワークを改善していくことで引き続き都市機能向上を図る。

- ・シェアサイクルの運営継続
- 引き続き市が支援しつつくくまちづくり藤枝がシェアサイクル運営していく。

公共交通の補完の手段として交通ネットワークの改善に資するステーションの拡大を行っていく。

・予約システムの機能改善

予約アプリについて、利用者からの満足度は高いが、運行事業者から改善の要望が出ているため、より円滑な運行管理が可能となるよう必要な機能改善を行っていく。

毎年世帯配布しているバスマップでアプリ利用方法の掲載を行うなど、電話予約からアプリ予約に移行しやすいよう周知を行う。